

# 支部協びより

第84号

発行所  
 NTT労組退職者の会  
 沖縄県支部協議会  
 沖縄県浦添市城間4-35-2  
 ☎098-870-7101  
 Fax.098-875-7450  
 責任者  
 黒島善市

拜啓 内閣総理大臣鳩山由紀夫 様

県民の意思は「基地はもういらぬ」

副会長 垣花 廣 光



米軍普天間飛行場の早期閉鎖・返還と、県内移設に反対し、国外・県外移設を求める県民大会

先日、四月二十五日、沖縄県民九万人が結集した「米軍普天間飛行場の早期閉鎖・返還と、県内移設に反対し、国外・県外移設を求める県民大会」に私たち退職者の会もバス一台を貸し切って、参加しました。国道五八号線(米軍が一号線と呼んでいた)は県民大会へ参加する貸切バス、自家用車で大渋滞。私たちは五八号線から、普天間飛行場の北側とキャンプ瑞慶覧の南側に挟まれた県道を通り、本土復帰前はコザ市(現沖縄市)と呼ばれ、米人専用のAサインバーのあった米軍嘉手納飛行場第二ゲート前、コザ暴動と呼ばれた米人専用車両(その黄色いナンバープレート)は「Keystone of the D

emise」と書かれていた)の焼き討ち事件のあった中之町を通り、嘉手納町と沖縄市、うるま市を結ぶ県道に出ました。この県道は嘉手納飛行場の北端を横切つて嘉手納、読谷、名護へと続きますが、この途中に重大な事件が二つ起こります。その一は、一九六八年、北爆(ベトナム)へ飛び立つB52戦略爆撃機(核兵器を搭載できる)がフェンスの手前で離陸に失敗し、爆発、炎上しました。そのフェンス北側の森には弾薬庫があるとされています。現在もそのままです。佐藤首相のときです。B52撤去県民運動が全県に盛り上がり、B52撤去ゼネストが計画されました。初の主席公選で

主席になった屋良朝苗氏は佐藤首相にB52の即時撤去を訴えました。そしてB52は撤去されました。これが大きなきっかけとなって、沖縄が一九七二年に本土復帰を果たすのです。

また、米軍の毒ガス貯蔵が問題になり、その撤去運動が起こります。またこの毒ガス撤去を見守るのが屋良主席の仕事でした。厳重な警備の中、輸送路途中の学校は休校にして、当時の具志川市天願枝橋へ毒ガスを移送されました。この毒ガスもまたこの県道沿い(東南植物園寄り)にありました。

県民大会が行われる読谷村に至るまでの間にさえ、これだけの事件を思い起こさせるのです。沖縄の米軍基地関連の事件簿を羅列(七二年本土復帰以降も含める)するとそこに見えるものは何でしょうか。国の沖縄に対する差別政策と基地の重圧でしかありません。沖縄の痛みを日本国民全体で分かち合うためにはどうすればよいでしょうか。「小指の痛みは全身の痛み」と喜屋武真榮氏(本土復帰当時の参院議員)は全国民に訴えておられました。自分の

ところに基地がある、来るのはいやだといえます。どうすればよいでしょうか。

六〇年安保は岸首相によって強行採決されました。沖縄は米軍の占領下です。国を二分して採決された安保条約は国民に理解されていると言えるでしょうか。在日米軍専用基地の七五%が沖縄に集中して、多数の府県には米軍基地は隣接していません。日米同盟とは言え、他所の国の軍隊が隣にあることは快いものではありません。

民主党が昨年九月の総選挙で大勝したとき、これは市民革命に等しいとさえ思いました。これは選挙を通して政権交代を実現したのだから、沖縄の軍事基地は変わると、沖縄県民は期待したのでした。

「対等な日米関係」を訴え、東アジア共同体構想を発表され、自公政権にはない平和を志向しました。だが、どうして、そこから回り回って、再び沖縄に米軍普天間飛行場の移設先を持つてくることができるのでしょうか。米海兵隊の「抑止力」云々がなぜ出てくるのか、理解に苦しみます。そもそも抑止力の考えは、アメリカ

力の軍事戦略の考えであつて、相手が先に核兵器を使用するならば、報復としてこちらも何倍もの核兵器を使用するぞ、ということ、どちらも核兵器が使えないという「抑止」の考えであつて、どのようにして海兵隊が抑止力なのでしょう。

最近、グアム島の話題が賑わっています。グアム島はアメリカの領土です。しかしながらアメリカ合衆国の憲法は適用外とのことです。そのグアム島の三分の一は米軍基地だそう。そこに米国防総省の「グアム基地拡張計画」があり、その「グアム移転準備計画」に普天間飛行場のグアム移転があり、その資料が公表されています。宜野湾市役所で入手は容易であるようです。

沖縄県民の総意は国外、県外です。世界一危険な普天間飛行場を即刻閉鎖・返還し、跡地利用計画を早急に立て、平和な街造りを支援して下さい。思いやり予算をここへまわせば再開発も早くなるはず。どうか、もう基地は「これ以上ありません」という県民の意思を十分に汲み取られませうお願い申し上げます。



石橋みちひろくんへご支援お願いします。  
 つながって、ささえあう社会へ。



官僚依存から脱却し政治主導により、「国民の生活が第一」として衆院選マニフェストに掲げた政策の実現を目指した政権運営を民主党は努力しています。

沖縄県民としては、この「国民の生活が第一」の中身は、雇用確保のほかに「基地の国外移設・県外移設」が緊急の重要な課題だと確信しています。先の衆院選での自民党議員全員落選や

四月二五日の県民大会で、県知事以下県内の全市町村長が参加して「県民の思い」を国に突きつけたことがその「課題性」を示しています。また、米軍の抑止力は「必要」と叫びながら、沖縄に比べて広大な土地を有しているにもかかわらず、自らの土地への「迷惑な米軍」を積極的に誘致せず、請われた時に「拒否」する姿は、醜いものです。

米軍基地の沖縄への集中的な押し付けは、あえて言えば、沖縄県民への差別にほかなりません。これ以上の「県民差別」を許さない

めにも、また政権の安定と政策の実現のためには、第二回参議院議員選挙での勝利は、不可欠です。

幹事会では、署名カード「私の同居人を紹介します」を返信用封筒を同封して、各会員へ送りました。

五月七日現在、三三三会員から七二名合計一〇三名のご紹介をいただきました。感謝をいたします。

## 普天間基地を返せ！ 人間の輪で普天間基地を包囲する 県民大行動に参加しよう！

4月25日の県民大会から、まだ興奮が覚めやらないようです。私たちの貸し切りバスは、沖縄市を出て、嘉手納基地のフェンス沿いで、すぐ読谷に向かう車の渋滞に見舞われま

今回、紹介者カード「全国の親戚、友人、知人を紹介します」を送付します。再度、返信用封筒を同封します。私の同居人を紹介しますのカードを未返送の会員も、ご記入の上「返送方」をお願いします。返信用封筒は、切手を貼らずに投函してください。また、この返信用封筒は、支部協へのご意見、「支部協だより」への投稿用としてもお使いください。多くのご紹介者をお待ちしています。  
 (事務局長：長嶺)

4月25日の県民大会から、まだ興奮が覚めやらないようです。私たちの貸し切りバスは、沖縄市を出て、嘉手納基地のフェンス沿いで、すぐ読谷に向かう車の渋滞に見舞われま

### 退職者の会共済生協の加入促進について

- 2010年の加入促進の取組みは、以下のとおり取り組まれます。
1. 改正生協法・保険法の施行(2010年4月1日施行)の事業規約遵守のため、火災共済の『契約坪数・世帯人数』の登録を徹底します。
  2. 火災共済・自然災害共済・交通災害共済の契約始期を12月1日に統一する。  
 対象者は、火災等の契約期が、2009年9月1日～2010年8月31日となっている会員です。従って、掛金は12ヶ月プラス3ヶ月＝15ヶ月分となります。(ただし、すでに契約始期が12月1日になっている継続組合員等の掛金は、12ヶ月分のみです。)
  3. 生命共済(ささえ愛)、労連共済の生命共済あいあい及び医療特約も同送します。
  4. 上記の加入申込書等の資料は、6月21日～23日までに会員宛直送されます。資料を区分けして、ゆっくり読みましょう。
  5. 契約変更のない方は、返送しないで下さい。「契約の継続」扱いとします。
  6. 新規申込者及び契約変更のある方は、7月13日までに、同封されている返信用封筒で投函して下さい。
  7. 口座引落しは、10月26日(火)に行なわれます。引落し不能にならないよう預金通帳の残高確認をして下さい。  
 すでに、12月始期になっている継続組合員等については、10月26日(火)支部協費、11月22日(月)共済掛金を引落します。
  8. 口座引落しのない会員は、「コンビニ払込票」による払込みとなります。口座未登録会員は、全国で9000名、沖縄県支部協で45名です。今年も口座引落し申込書を送付しますので、ぜひ御協力をお願いします。
  9. 保険法の規定により、任意共済の共済金の支払いは、個人口座振込みとなります。  
 共済金請求書の「送金先口座記入欄」が未記入の場合は、「掛金引落し口座」へ送金されます。
  10. 遺族(配偶者に限定)が、組合員(退職者の会の会員となり、引続き共済制度を利用できることとします。現在、火災共済を利用している会員が2名います。)

が、到着して、四五分後、最後の『頑張ろう』三唱がありました。『頑張ろう』が叫べたので、どうか参加できてよかったですという気持ちになりました。会場周辺の木陰にもたくさん参加者の姿が見られました。大会事務局の発表では、九万人を超える参加があったとされていますが、地域での参加できない人々の「イエロカード」リボンや諸行動を見ても、普天間基地の国外・県外移設の「沖縄の民意」は十二分に示されたと思います。

普天間基地の移設について、政府の迷走が見られる中、下記の「普天間基地を返せ！人間の輪で普天間基地を包囲する」が、同基地の無

条件返還を要求する県民意志をアピールする。  
 2、期日：5月16日(日)  
 3、包囲行動：普天間基地のフェンス、外周国道、県道等約13kmを「人の輪」で包囲する。  
 ①時間：14:00～15:00  
 ②各団体配置箇所：退職者の会は、宜野湾市実行委員会、宜野湾市役所正面より南側約2000Mのフェンス沿い南端：退職者の会ののぼり旗を目印に13:30までに集合してください。  
 4、PR企画：ラジオ放送に

よる現場実行中継  
 5、規模：最低でも2万人以上を目標とする。  
 6、幹事団体：宜野湾市実行委員会、平和運動センター、統一連、普天間基地爆音訴訟団、新嘉手納基地爆音訴訟団、ヘリ基地反対協、ヘリパッドにいない住民の会、民主党、社民党、共産党、社大党、外多数  
 7、実行委員会共同代表：  
 伊波洋一(宜野湾市長)、野国昌春(北谷町長)、事務局：平和運動センター  
 8、その他：会員の沢山の参加をお待ちしています。